

# 郷土の 偉人

和算家で手習場（寺子屋）の師匠 松木 幽甫 ゆう ほう

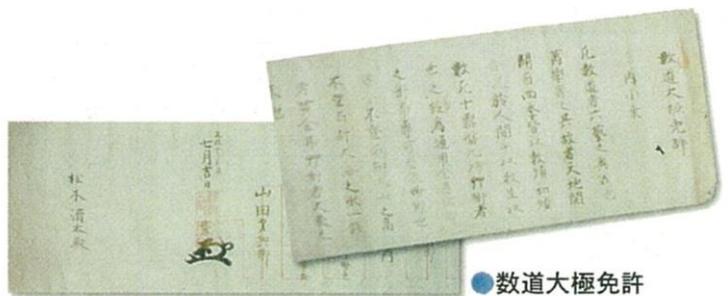
梨郷・本覚寺の門前に「松木幽甫」と彫った石碑があります。弘化3年（1846年）、松木塾（手習場）の教え子たちが師匠への報恩のために建てたものです。

松木幽甫は安永2年（1773年）に梨郷村の旧家松木新右衛門家の長男として生まれました。名は清駄または清太と言いましたが、後に幽甫と名乗りました。幼少の頃から学問が大好きだったという幽甫は、やがて「和算」を学んで夢中になったのでしょうか、46歳のとき家を息子夫婦に譲って隠居分家し、本格的に和算の勉強始めたようです。文政6年（1823年）には中西流「算術免許之事」という免許をもらっています。

「和算」というのは日本古来の算学で（現在私たちが勉強しているのは西洋数学）、江戸時代には西洋数学に負けない高度な理論に達していました。南陽市内では大橋に和算塾があり、ここの塾生

たちの何人かは、大橋の塾の先生の先生が福島で開いている塾にも入門しています。南陽には昔から学問好きの人たちが多かったんですね。

幽甫は文政4年（1821年）頃から手習場を開き、子どもたちの教育にも尽力しました。この松木手習場は、級長、規律係、学習係等を決めていて、しっかりした塾だったようです。さすが数学の先生の塾ですね。生徒には女子もいました。



●数道大極免許



●本覚寺の石碑

幽甫は、手習場で教えながら自らは和算の勉強にも励み、文政10年（1827年）には「数道大極免許」という免許をもらいました。数学の道を大いに極めたという意味でしょうか。一般庶民でこのような上級免許をもらったのはとても珍しいことのようにです。

幽甫はその後小説等も書くなど幅広く活躍し、安政2年（1855年）82歳で亡くなりました。

文・須崎寛二

平成24年8月1日号 市報なんよう掲載